Roboticsware

Automation シリーズ

インストールガイド

RWMN-5-21-001

1章　インストール **3**

このマニュアルについて 3
動作環境 3
制限事項について 4
ライセンスキーの接続（USB キー） 5
標準のインストール手順 6
アンインストール手順 10
高度なインストール手順 12
サンプルプログラムについて 13
FA-Engine ランタイムの配布 13
IPLink クライアントのセットアップ 14
FA-Touch ランタイムの配布 15
Windows8/Windows7/Vista/Server2012/Server2008 での注意事項 16

2章　マニュアル構成 **22**

マニュアルの読み方 22
マニュアル構成 23

3章　補足事項 **24**

設定ファイルの互換性について 24
設定ファイルのフォーマット 24
各アプリケーションの違い 26

1章　インストール

このマニュアルについて

このたびは、Roboticsware® FA シリーズをご購入いただきありがとうございます。
本書「インストールガイド」では、FA シリーズのインストール方法について解説しています。このインストールガイドは FA シリーズ製品共通のマニュアルです。



このマニュアルは、FA-Panel/PA-Panel/BA-Panel を除く全ての FA シリーズ共通のインストールマニュアルです。Panel ユーザーの方は、「FA-Panel インストールガイド」を参照してください。

動作環境

FA シリーズは下記の環境で動作します。

対応 OS	Windows8 （8.1 含む）/ Windows7 / WindowsVista / WindowsXP / Windows Server2012 （R2 含む） / Windows Server2008 （R2 含む）/ Windows Server2003 の日本語および英語版の 32bitOS 対応です。64bit 版 OS では WOW64 により動作します。
ハードウェア	上記 OS が動作する PC。メモリ 1G 以上 HDD 約 100M 以上の空き容量。



インストール作業はアドミニストレータ権限で行って下さい。



Windows8/Windows7/Vista/ Server2012/Server2008 でアプリケーションを実行する場合、管理者権限で起動する必要がある場合があります。
詳細は「Windows8/Windows7/Vista/ Server2012/Server2008 での注意事項」を参照してください。



日本語版、英語版いずれについても、実行ファイル（インストールされるファイル）は共通です。表示言語は OS のタイプによって自動的に切り替わります。日本語 OS では日本語で表示され、それ以外の OS では英語で表示が行われます。

制限事項について

一部の機能には使用する際に制限事項があります。以下の内容について注意してください。

■通信ドライバ

三菱非公開プロトコル を用いた通信ドライバ	三菱非公開プロトコル通信ドライバ（CPU 直結、MELSECNET/H ボード、CC-Link ボードなど）は三菱製ライブラリを用いて通信されます。現在の対応 OS は Windows7（64bit 含む）/ WindowsVista / WindowsXP です。
FL-net	FL-net 接続では、センチュリーシステム製 FL-PCI ボードを用いて通信されます。 対応 OS はボードの種類ごとに異なります。 FL-PCI/V2:WindowsXP FL-PCI/V2-100:Windows7/WindowsVista/WindowsXP の 32bit FL-PCI/V2-100L：Windows8(8.1 含む)/Windows7/WindowsVista の 32/64bit
Microsoft ドライバ	Excel2000 / Word2000 / PowerPoint2000 ドライバの対応 OS は WindowsXP のみです。この制限は、Microsoft が表明している Office2000 の対応 OS に依存します。
InTouch I/O （DDE/SuiteLink）	InTouch 用インターフェースである DDE/SuiteLink の対応 OS は WindowsXP のみです。

■Microsoft　Excel を使用する機能を用いた場合、サポートしているバージョンは下記のとおりです。

日報・月報・年報アクション	Excel2000～Excel2016（※32Bit 版のみ） 印刷のみを行う場合は Excel の導入は必要ありません。詳細は FA-Report のマニュアル「レポートの機能解説」項目を参照してください。

■下記の環境を用いたサンプルについては対応 OS が下記に制限されます。

Visual Basic 6.0	WindowsVsita / WindowsXP / Windows Server2008/ Windows Server2003
Visual Studio 2005	Windows7 / WindowsVsita / WindowsXP / Windows Server2008（R2 を含む）/ Windows Server2003
Visual Studio 2008	Windows7 / WindowsVsita / WindowsXP / Windows Server2008（R2 を含む）/ Windows Server2003
Visual Studio 2010	Windows8 / Windows7 / WindowsVsita / WindowsXP / Windows Server2012 / Windows Server2008（R2 を含む）/ Windows Server2003

※この制限は、Microsoft が表明している開発ツールの対応 OS に依存します。

■IPLink、FA-Engine、FA-Touch を使用した場合、サポートしている開発環境は以下の通りです。

VisualBasic	VisualBasic 6.0
VisualBasic .net	VisualStudio 2003 / 2005 / 2008 / 2010 / 2012 / 2013 / 2015



IPLink、FA-Engine、FA-Touch の OCX は 32Bit で構成されているため、32Bit アプリケーション（X86）としてコンパイルを行う必要があります。

ライセンスキーの接続（USB キー）

FA シリーズ（FA-Touch を除く）を 1 ライセンス購入すると、ライセンスキー（USB キー）が 1 つ提供されます。
アプリケーションを使用する際は、パソコンにライセンスキーが接続されている必要があります。

※ライセンスキーには下記の ID が振られております。

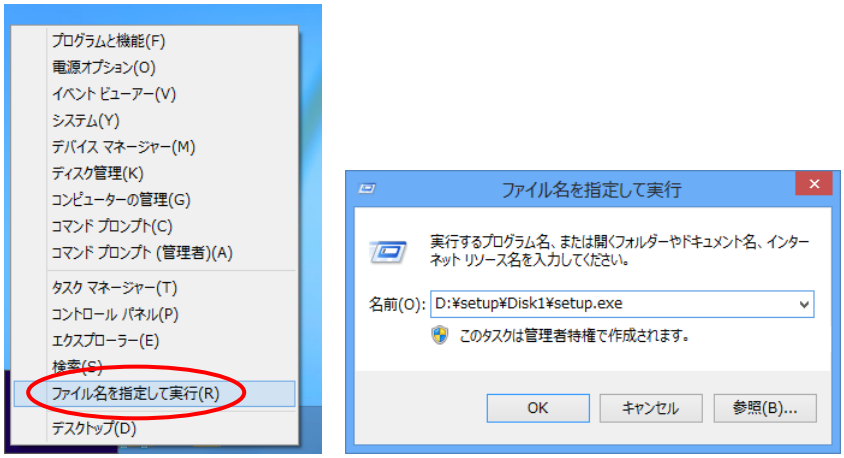
製品	ID	製品	ID
FA-Studio5+	FA-Studio5+	FA-Logger5	FA-Logger5
FA-Studio5	FA-Studio5	FA-Driver5	FA-Driver5
FA-Engine5	FA-Engine5	FA-Trend5	FA-Trend5
FA-Server5	FA-Server5	FA-Report5	FA-Report5

標準のインストール手順

アドミニストレータ権限でインストール作業を行って下さい。

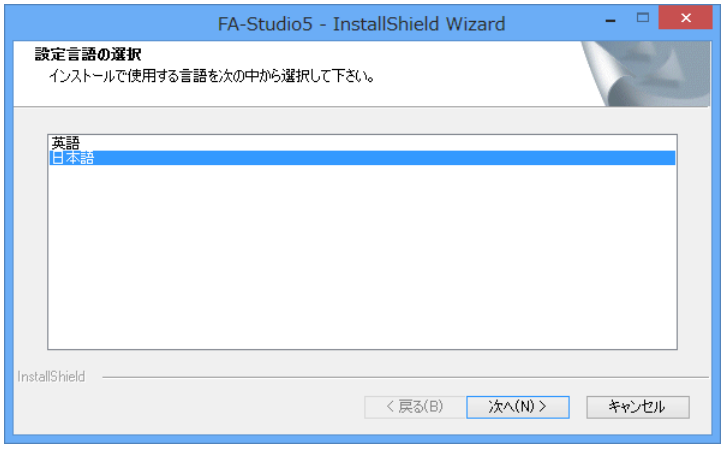
1. CD-ROM ドライブに、「FA-Panel」の CD-ROM を挿入してください。

2. ディスクトップの一番左側にマウスポインターを移動させ、右クリックをします。表示されるメニューから「ファイル名を指定して実行」を選択し、「名前」に「D:¥setup¥Disk1¥setup.exe」と入力して、「OK」をクリックします。
   入力する文字列の先頭の一文字は、CD-ROM ドライブの番号を指定します。上記は CD-ROM ドライブが D ドライブの場合ですが、もしもお使いのパソコンの CD-ROM ドライブが D ドライブでない場合には、先頭の一文字を実際の CD-ROM ドライブの番号に置き換えてください。正しく実行されると、以下のダイアログが表示されます。このダイアログが表示されなかったり、エラーメッセージが表示されたりする場合には、入力する文字列をよく確認して、再度実行してください。



Windows7 以前の OS の場合は、スタートボタンをクリックし、スタートメニューの中にある「ファイル名を指定して実行」を選択してください。

3. インストールに使用する言語を選択して、「OK」をクリックする。



※日本語、英語どちらを選択しても、インストールされるファイルは同じものがインストールされます。

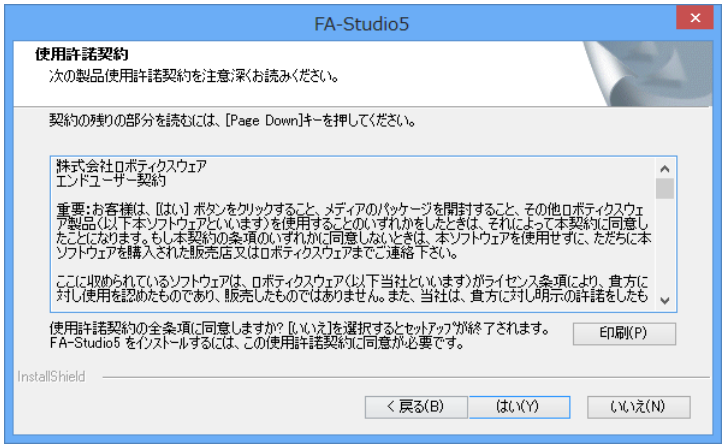
4.　「次へ」をクリックする。



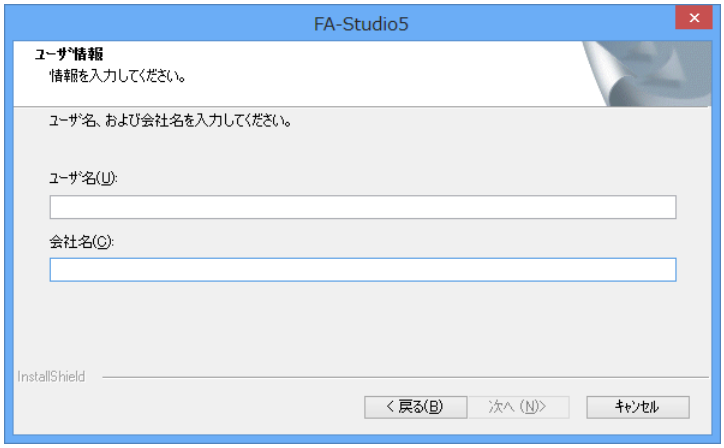
※以降の解説では、「日本語」を選択した場合の画面を掲載しています。

5.　ライセンス契約の同意確認

同意いただける場合、「はい」をクリックして進めてください。万が一、ライセンス契約に同意いただけない場合には、弊社までお問い合わせください。



6.　名前と会社名を入力し、「次へ」をクリックする。



7. インストール先を確認して、「次へ」をクリックする。
インストール先を変更したい場合、「参照」をクリックして、任意のインストール先を指定してください。
なお、インストール先の初期設定では、Windows がインストールされているドライブの「¥Program Files¥Roboticsware¥FA-Studio5」が設定されています。





64bitOS の場合は、「¥Program Files (x86)¥Roboticsware¥FA-Panel5」が設定されています。

8. 「標準」を選択し、「次へ」をクリックする。

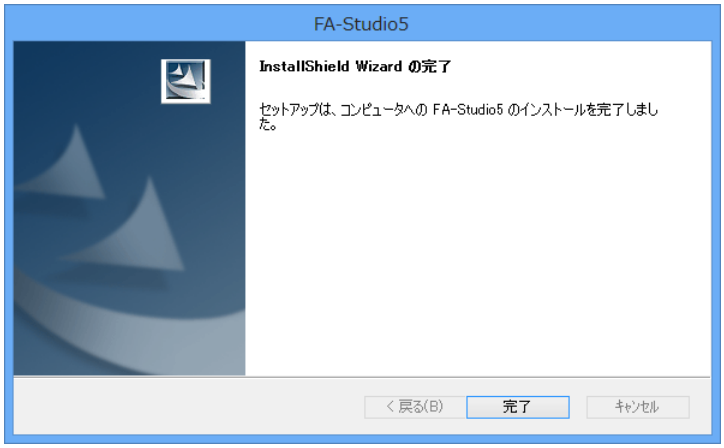


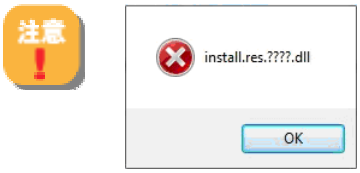
9. 「次へ」をクリックする。



１０.　　「完了」をクリックする。

全ての作業が完了すると、以下のダイアログが表示されます。お使いのパソコンの状況によっては、パソコンの再起動が必要な場合がありますが、その場合には画面の指示にしたがって再起動を行ってください。万が一、正常にインストールできない場合には、弊社までお問い合わせください。





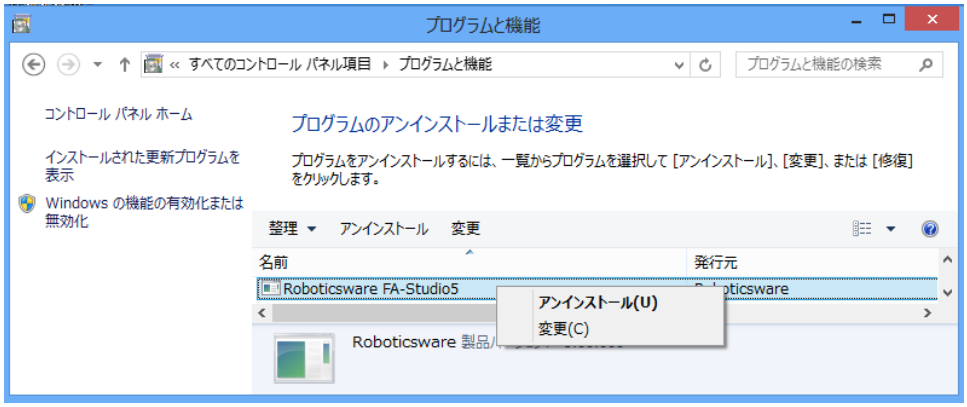
日本語 OS 以外の OS でインストールした場合、左記のようなエラーログがでる場合があります。その際は、OK ボタンを押してください。

アンインストール手順

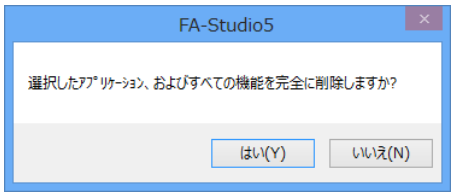
インストールしたアプリケーションが必要なくなった場合には、下記の手順でアンインストール（削除）して下さい。

1. コトロールパネルの「プログラムと機能」をダブルクリックする。

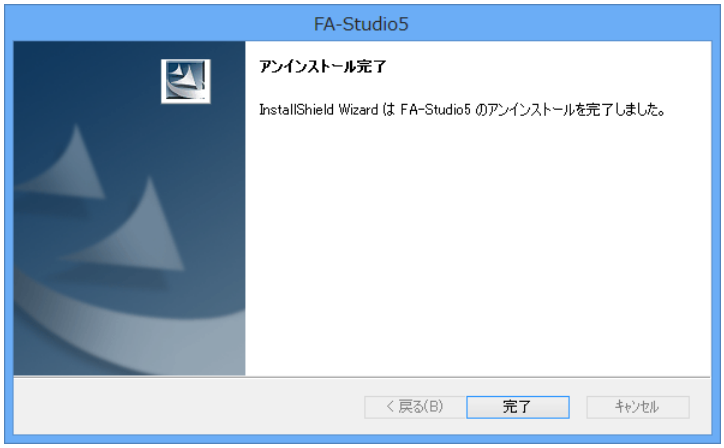
2. 「Roboticsware FA-Studio5」を選択し「アンインストール」をクリックする。



3. 「はい」をクリックする。



アンインストールが終了すると、以下のダイアログが表示されます。



4. 「完了」をクリックする。

以上でアンインストールの作業は終了です



アンインストールした場合、自動登録エラーというログがでる場合があります。その際は、OK ボタンを押して、ダイアログを閉じてください。

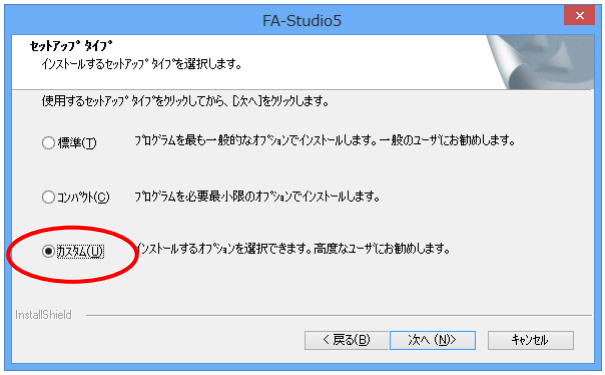
削除されないファイルについて

アンインストールを行っても、以下のファイルは削除されません。

●三菱電機製ライブラリ
FA シリーズは、三菱電機製 PLC との通信（非公開プロトコル）を行うために、三菱電機製のライブラリを使用しています。このライブラリは、複数のアプリケーションから利用される可能性があるため、FA-Studio をアンインストールしても、パソコンからは削除されません。ライブラリが使用されないことが明らかな場合は、アンインストール後に手動で削除してもかまいません。通常、ライブラリの実ファイルは、インストールしたフォルダ内の「Library¥EasySocket」に格納されます。もしも、FA-Studio をインストールしたフォルダ内に「Library¥EasySocket」フォルダが存在しない場合は、他のアプリケーションによって既にライブラリがインストールされている可能性が非常に高いため、ライブラリは削除しないことを強くお勧めします。

高度なインストール手順

セットアップ方法で「カスタム」を選択すると、インストール内容の詳細を指定することができます。又、セットアップ方法で「コンパクト」を選択すると、「Mitsubishi Option Library」を除くファイルがインストールされます。





FA-Studio5	FA-Studio プログラム一式。
FA-Server5	FA-Server プログラム一式。
FA-Logger5	FA-Logger プログラム一式。
FA-Driver5	FA-Driver プログラム一式。
FA-Report5	FA-Report プログラム一式。
FA-Trend5	FA-Trend プログラム一式。
FA-Engine5	FA-Engine プログラム一式。
FA-Touch5	FA-Touch プログラム一式。
IPLink Client	IPLink クライアント ActiveX ライブラリをセットアップします。
OPC Client	OPC テストクライアント及び、OPC 関連のライブラリをセットアップします。
Mitsubishi Option Library	三菱オプションライブラリです。RS-232C/Ethernet 以外の通信方法（非公開プロトコル）で通信する場合、必要になります。



「Mitsubishi Option Library」のインストールには約 65M の HDD が必要です。

サンプルプログラムについて

マニュアルで使用されているサンプルプログラムは CD-ROM の「¥faseries5」にあります。お使いの開発環境に合わせ、任意のフォルダにコピーしてご利用下さい。尚、各サンプルの設定内容の内、ファイルへのパス名、FTP サーバアドレス、メールアドレス等については、ユーザー環境に合わせて設定しなおす必要があります。ファイルへのパス名については、「c:¥faseries5¥sample」となるようにコピーすることで設定の修正が不要になります。

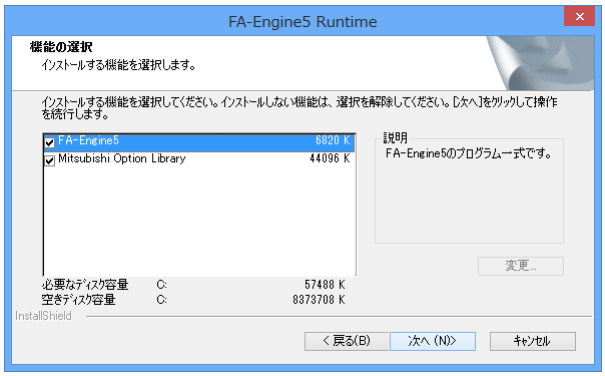
FA-Engine ランタイムの配布

FA-Engine の ActiveX 通信ライブラリを使用して作成された実行形式のアプリケーションは、自由に配布することができます（但し、不特定の第三者への配布は別途許諾が必要です）。ラインタイムの配布条件については「FA-Engine ユーザーズマニュアル」「ランタイムライセンスの配布について」を参照ください。

ランタイムに必要なファイルのインストールは、CD-ROM の「¥Runtime¥FAEngine」にあるセットアッププログラムによって行います。このランタイム用インストーラは、配布条件の範囲内において、作成したアプリケーションと共に自由にコピーして配布することができます。

ランタイムのインストーラでは、インストール途中に「カスタム」を選択すると、インストール内容を細かく選択することができます。三菱非公開プロトコルでの通信をしない場合は、「Mitsubishi Option Library」のチェックを外すことによって、より少ない容量でセットアップを行うことができます。





IPLink クライアントのセットアップ

IPLink クライアント用の ActiveX ライブラリを使用して作成された実行形式のアプリケーションは、自由に配布することができます。IPLink クライアント用の ActiveX は下記のファイルです。

ClientIPLink5.ocx

「ClientIPLink5.ocx」はインストールしたフォルダ「¥Roboticsware¥FA-Studio5」内にあります。インストール先の PC のシステムディレクトリ、もしくはアプリケーションフォルダへコピーし、レジストリ登録を行って下さい。



ActiveX は regsvr32.exe などでレジストリへ登録する必要があります。手動で登録するには、regsvr32.exe をウインドウズディレクトリで検索し、「ClientIPLink5.ocx」を「regsvr32.exe」へドラックアンドドロップして下さい。

また、上記 ActiveX は下記のマイクロソフトの共有ライブラリを使用しています。OS の環境により下記のライブラリをウインドウズのシステムディレクトリへインストールする必要があります。下記ファイルは CD-ROM の「¥Runtime¥Mfc¥」内にあります。

OLEPRO32.DLL
MFC42LOC.DLL
MFC42JPN.DLL
mfc42.dll



システムディレクトリ内に上記ライブラリが既にインストールされている場合、細心の注意が必要です。各ファイルの日付より新しいファイルが既にインストールされている場合は、上書きしないようにして下さい。上書きによって古いライブラリに入れ替えてしまった場合、他のアプリケーションが動作しなくなる可能性があります。

FA-Touch ランタイムの配布

FA-Touch の ActiveX ライブラリを使用して作成された実行形式のアプリケーションは、自由に配布することができます（不特定の第三者への配布は別途許諾が必要です）。ラインタイムの配布条件については「FA-Touch ユーザーズマニュアル」「ランタイムライセンスの配布について」を参照ください。

FA-Touch で配布可能なファイルは下記のファイルです。下記ファイルはインストールしたフォルダ「¥Roboticsware¥FA-Studio5」内にあります。インストール先の PC のシステムディレクトリ、もしくはアプリケーションフォルダへコピーし、レジストリ登録を行って下さい。

AnalogMeter.ocx
BarSwitch.ocx
BarMeter.ocx
Counter.ocx
CustomButton.ocx
CustomLamp.ocx
CustomSwitch
DegitalSwitch.ocx
Dpm.ocx
DirectPanel
EmgSwitch.ocx
Frame.ocx
Label.ocx
Light1.ocx
Light2.ocx
PicAnimation.ocx
PicSelect.ocx
SelectSwitch.ocx
SignalTower.ocx
Slider.ocx
Switch1.ocx
Switch2.ocx
Switch3.ocx
Switch4.ocx
Temp.ocx



ActiveX は regsvr32.exe などでレジストリへ登録する必要があります。手動で登録するには、regsvr32.exe をウインドウズディレクトリで検索し、上記ファイルを「regsvr32.exe」へドラックアンドドロップして下さい。

また、上記 ActiveX は下記のマイクロソフトの共有ライブラリを使用しています。OS の環境により下記のライブラリをウインドウズのシステムディレクトリへインストールする必要があります。下記ファイルは CD-ROM の「¥Runtime¥Mfc¥」内にあります。

OLEPRO32.DLL
MFC42LOC.DLL
MFC42JPN.DLL
mfc42.dll



システムディレクトリ内に上記ライブラリが既にインストールされている場合、細心の注意が必要です。各ファイルの日付より新しいファイルが既にインストールされている場合は、上書きしないようにして下さい。上書きによって古いライブラリに入れ替えてしまった場合、他のアプリケーションが動作しなくなる可能性があります。

Windows8/Windows7/Vista/Server2012/Server2008 での注意事項

Windows8/Windows7/Vista/Server2012/Server2008 でアプリケーションを実行する場合、下記の機能が制限されることがあります。

制限事項	対象アプリケーション
OPC インターフェース	FA-Server/FA-Studio
時刻設定にまつわる機能（時刻の同期アクション）	FA-Studio
レジストリの変更にまつわる機能（スクリプト Ver2 アクションの SetRegistoryValue メソッド）	FA-Studio

これはユーザーアカウント制御（UAC）が有効になっている場合に起こります。
上記制限を回避する方法は下記の２つがあります。

上記制限を回避するためには、管理者モードでアプリケーションを起動する必要があります。



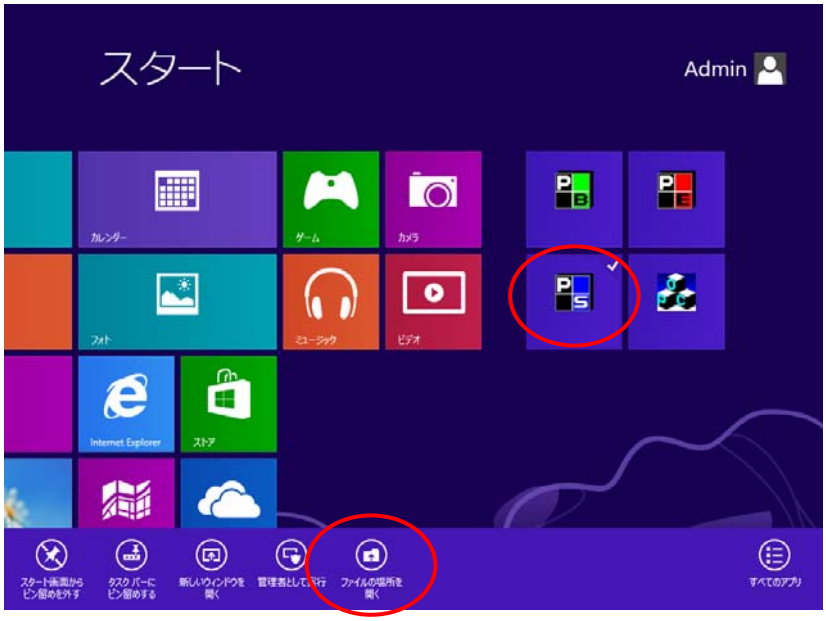
管理者モードで起動した状態で、Excel などと DDE 通信を行う場合、Excel などのアプリケーション側も管理者モードで起動する必要があります。

管理者モードでアプリケーションを起動する方法

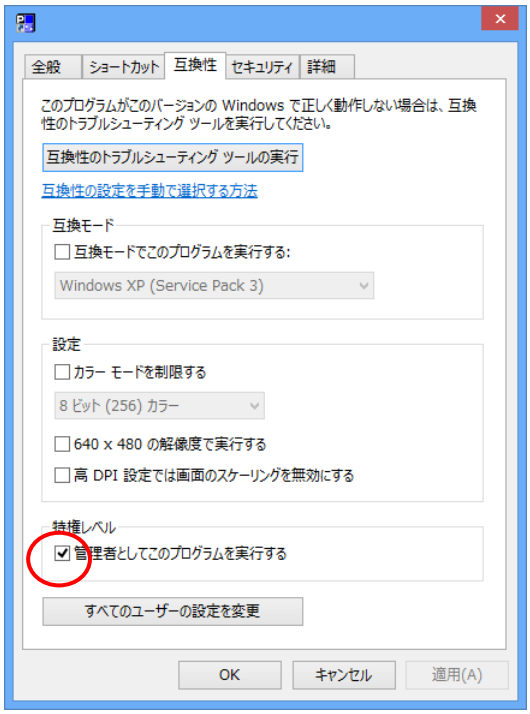
管理者モードで起動する方法で設定する場合、下記の手順で設定します。

Windows8 の場合

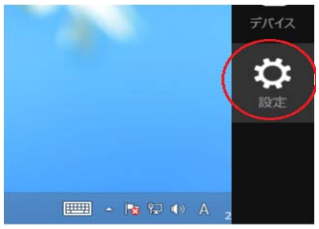
1．スタートメニュー画面から管理者モードで起動したいアプリケーション（Panel Serve、FA-Studio など）を右クリックで選択し、下部に表示されたメニューから「ファイルの場所を開く」を選択します。

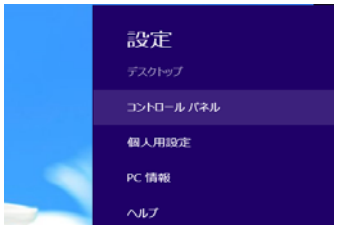


2．スタートメニューに登録されたアプリケーションが含まれるフォルダが表示されます。該当のアプリケーションを右クリックして表示されたメニューから「プロパティ」を選択し、「互換性」タブを選択します。「管理者としてこのプログラムを実行する」にチェックを入れてＯＫボタンを押します。

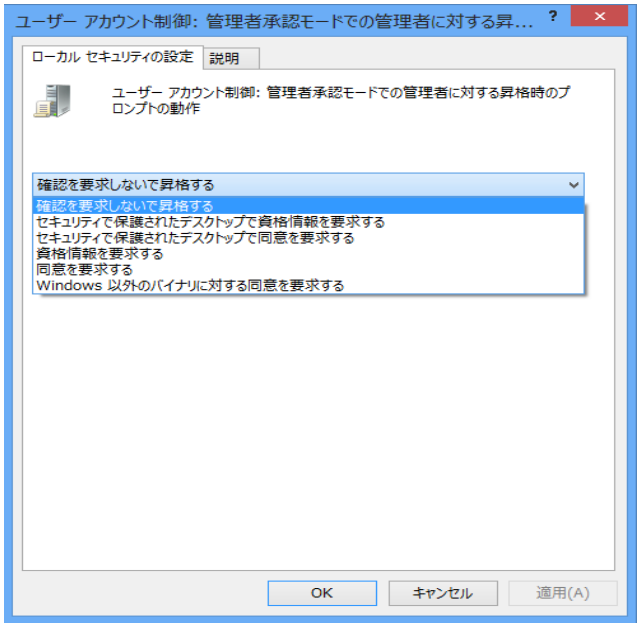


3．管理者モードで起動した場合、管理者での昇格確認ダイアログが表示される場合があります。このダイアログを非表示にするため下記の設定を行います。デスクトップ画面で画面右上マウスポインターを移動し、チャームを表示します。一番下の「設定」をクリックし、設定一覧画面を表示します。設定一覧のコントロールパネルを選択し、コントロールパネルを開きます。



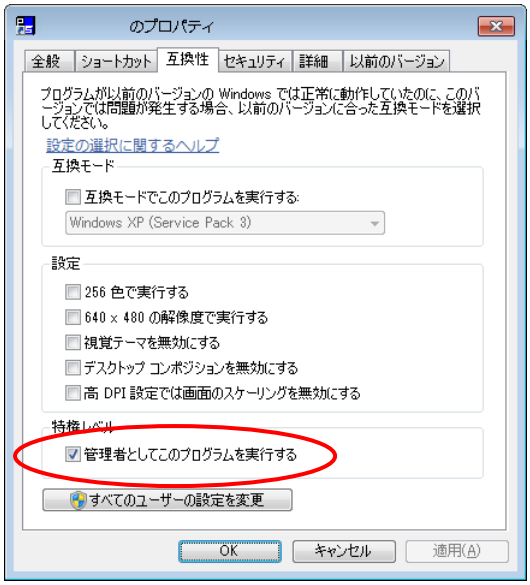


4. コントロールパネルの「システムとセキュリティ」「管理ツール」で「ローカル セキュリティ ポリシー」を開き、ウィンドウ左側のツリーで、「セキュリティの設定」「ローカル ポリシー」「セキュリティ オプション」を開き、右側の「ポリシー」リストで「ユーザーアカウント制御:管理者承認モードでの管理者に対する昇格時のプロンプト動作」を探し、ダブルクリックします。「ローカル セキュリティの設定」タブのドロップダウンリストではデフォルトで「同意を要求する」が選択されていますが、これを「確認を要求しないで昇格する」に変更します。

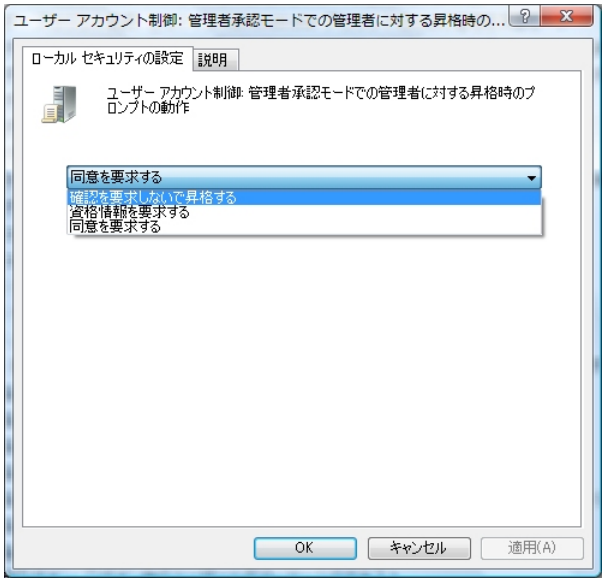


Windows7 以前の OS の場合

1．スタートメニューから管理者モードで起動したいアプリケーションを選択（Panel Server など）し、右クリックして表示されたメニューから「プロパティ」を選択し、「互換性」タブを選択します。「管理者としてこのプログラムを実行」にチェックを入れてＯＫボタンを押します。



2．管理者モードで起動した場合、管理者での昇格確認ダイアログが表示される場合があります。このダイアログを非表示にするため下記の設定を行います。コントロールパネルの「システムとメンテナンス」「管理ツール」で「ローカル セキュリティ ポリシー」を開き、ウィンドウ左側のツリーで、「セキュリティの設定」「ローカル ポリシー」「セキュリティ オプション」を開き、右側の「ポリシー」リストで「ユーザーアカウント制御:管理者承認モードでの管理者に対する昇格時のプロンプト動作」を探し、ダブルクリックします。「ローカル セキュリティの設定」タブのドロップダウンリストではデフォルトで「同意を要求する」が選択されていますが、これを「確認を要求しないで昇格する」に変更します。



管理者モード実行時の注意点

アプリケーションを管理者モードで動作させた場合、ネットワークドライブにアクセスできなくなる場合があります。
これは、WindowsVista 以降の OS より搭載された UAC の仕組みに依存した動作となります。
この動作は、OS 側の制御であり、アプリケーション側から制御が出来ないため、二重化運用やファイル操作アクションなどでネットワークドライブを参照している場合、以下の対策を行ってください。

1. チャームの「検索」を選択し、「regedit」と入力し、表示された regedit.exe を実行する
   Windows7 の場合は、スタートメニューの検索窓より検索を行ってください。

2. レジストリエディタが起動したら、以下のキーにアクセスする
   キー： HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥Policies¥System

3. 新規に以下の値を作成し、値のデータを設定する
   値：EnableLinkedConnections（DWORD32 ビット）
   値のデータ：1

レジストリエディタを終了し、コンピュータを再起動する

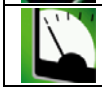
2章　マニュアル構成

マニュアルの読み方

各製品のユーザーズマニュアルの冒頭に記載されている、「マニュアルの読み方」を参照して下さい。
各製品のマニュアルは CD-ROM の「¥manual」内にあります。

マニュアル構成

■各製品別マニュアル

	マニュアル	説明	ファイル
	FA-Studio ユーザーズマニュアル	「FA-Studio」のマニュアルです。	010_fastudio5.pdf
	FA-Server ユーザーズマニュアル	「FA-Server」のマニュアルです。	011_faserver5.pdf
	FA-Logger ユーザーズマニュアル	「FA-Logger」のマニュアルです。	012_falogger5.pdf
	FA-Driver ユーザーズマニュアル	「FA-Driver」のマニュアルです。	013_fadriver5.pdf
	FA-Trend ユーザーズマニュアル	「FA-Trend」のマニュアルです。	014_fatrend5.pdf
	FA-Report ユーザーズマニュアル	「FA-Report」のマニュアルです。	015_fareport5.pdf
	FA-Engine ユーザーズマニュアル	「FA-Engine」のマニュアルです。	016_faengine5.pdf
	FA-Touch ユーザーズマニュアル	「FA-Touch」のマニュアルです。	017_fatouch5.pdf

■共通マニュアル

	マニュアル	説明	ファイル
	インストールガイド	インストールのためのマニュアルです。	001_faseries5_install.pdf
	二重化マニュアル	FA シリーズを二重化運用する際のマニュアルです。	002_faseries5_redundancy.pdf
	タグマニュアル	PLC と接続するためのタグの設定についてのマニュアルです。	910_common_tag.pdf
	アクションマニュアル	アクションのリファレンスです。	920_common_action.pdf
	ロガーアクション詳細マニュアル	アクションの内、ロガーアクションの詳細について記述されたマニュアルです。	921_common_action_logger.pdf
	イベントマニュアル	アクションとトリガの関係について詳しく書かれたマニュアルです。	930_common_event.pdf
	ビューマニュアル	ビュー（画面）の設定についてのマニュアルです。	940_common_view.pdf
	インターフェース基本マニュアル	インターフェース全般の基本的な仕様について記載されています。	950_common_interface.pdf
	OPC インターフェース 詳細マニュアル	OPC インターフェースに関する詳細マニュアルです。	951_common_interface_OPC.pdf
	DDE インターフェース 詳細マニュアル	DDE インターフェースに関する詳細マニュアルです。	952_common_interface_DDE.pdf
	IPLink インターフェース 詳細マニュアル	IPLink インターフェースに関する詳細マニュアルです。	953_common_interface_IPLink.pdf
	接続マニュアル	PLC との接続のためのマニュアルです。	901_common_plc.pdf

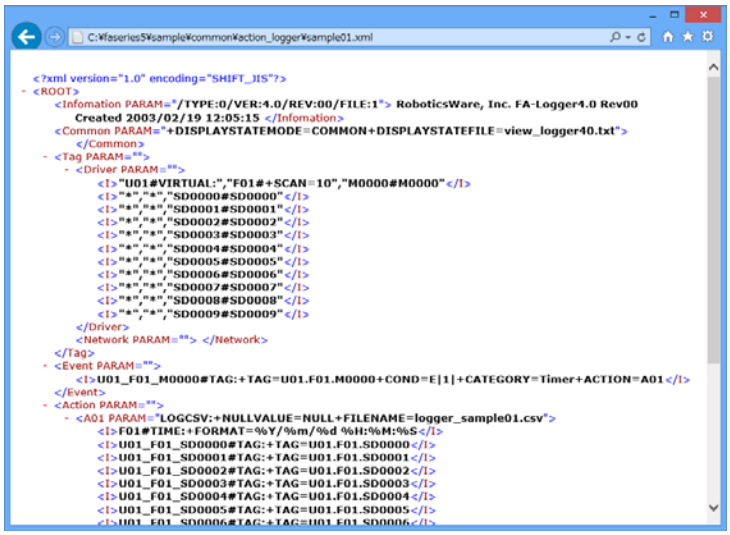
3章　補足事項

設定ファイルの互換性について

FA シリーズの設定ファイルは、全てテキストファイル形式で保存されます。設定ファイルは FA シリーズ全製品で互換性があり、シリーズ間で再利用することができます。例えば、「FA-Server」で設定したファイルを「FA-Studio」でそのまま読み込むことが可能です。ある特定のアプリケーションに依存した機能に関する設定が含まれていた場合でも、他のアプリケーションが設定ファイルを読み込む際には、利用できない機能の設定は全て無視されます。

設定ファイルのフォーマット

FA シリーズの設定ファイルはすべてテキストファイル形式で保存され、内部フォーマットは XML 形式のフォーマットになっています。ファイルの拡張子を「.txt」から「.xml」に変更してインターネットエクスプローラなどで参照すると、その構造がわかります。



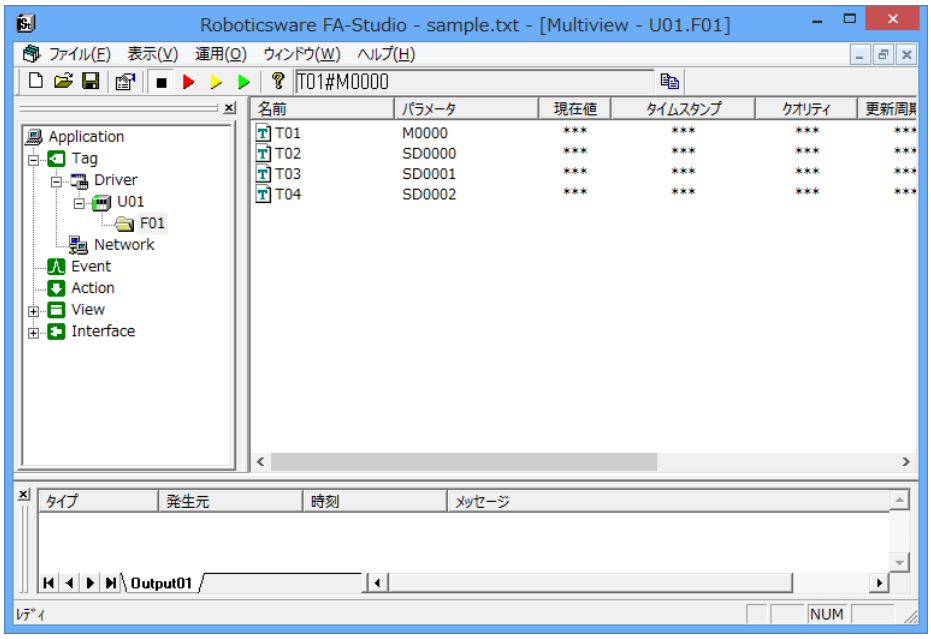
設定ファイルの中身を見ると、弊社アプリケーションの５つの概念がルートの直下に位置しており、各設定が階層構造になっています。また、弊社アプリケーションの左側ツリーの構造は、設定ファイルの構造と一致しています。

```
<?xml version="1.0" encoding="shift_jis" ?>
- <ROOT>
    ・・省略・・
  + <Tag PARAM="">
  + <Event PARAM="">
  + <Action PARAM="">
  + <View PARAM="">
  + <Interface PARAM="">
  </ROOT>
```



この XML の構造についてもうすこし詳しく解説します。ここでは例として下記のようなタグを設定した場合に注目してみます。

（エディタ）



（設定ファイル）

```
- <Tag PARAM="">
  - <Driver PARAM="">
      <I>"U01#VIRTUAL:","F01#+SCAN=10","T01#M0000"</I>
      <I>"*","*"," T02#SD0000"</I>
      <I>"*","*"," T03#SD0001"</I>
      <I>"*","*"," T04#SD0002"</I>
    </Driver>
    <Network PARAM="" />
  </Tag>
```

上記の「エディタ」及び「設定ファイル」の内容を比較すると理解できるとおり、エディタで設定した内容はそのまま XML の構造で保存されます。これらの XML の構造を理解することにより、専用のエディタを利用せずに、メモ帳などのテキストエディタを使って設定ファイルを直接編集して、設定を変更することも可能です。特に、大量なタグ登録などの設定を行う場合には、直接設定ファイルを編集した方が便利な場合があります。

具体的には、上記設定に「<I>"*","*","T05#SD0003"</I>」という行を新たに追加することにより、PLC のアドレス「SD0003」に設定された「T05」という名前のタグを追加できます。

この設定ファイルを直接書き換える方法は、タグのみに限らず、イベントやアクションなどの設定においても応用することができます。

各アプリケーションの違い

FA シリーズはいくつかのパッケージ製品で構成されています。製品により、使用できるアクションやビューなどの仕様が異なります。各製品の差異については下表を参照してください。

	FA-Studio	FA-Engine (TagEditer)	FA-Driver	FA-Server	FA-Logger	FA-Report	FA-Trend
タグ							
デバイス	100 機種	100 機種	100 機種	100 機種	100 機種	仮想デバイス	仮想デバイス
イベント							
定周期イベント	○				○	○	○
定刻イベント	○				○	○	○
タグイベント	○				○	○	○
アクション							
ロガー(CSV/ODBC)	○				○		
タグスクリプト	○				○		
タグブリッジ	○						
タグレポート	○						
バッチ転送（テキスト）	○						
バッチ転送（ODBC）	○						
日報・月報・年報	○					○	
メール送信	○					○	○
ファイル操作	○						
ファイルバックアップ	○						
FTP ファイル転送	○					○	○
SQL 実行	○						
ダイアルアップ	○						
スクリーンショット	○						○
外部アプリケーション実行	○						
ビュー							
タグモニター	○	○	○	○	○		
タグリスト	○	○	○	○	○		
アウトプットビュ	○	○	○	○	○		
レポートビュー	※○					○	
トレンドグラフ	※○						○
GUI ActiveX 部品集	○						
インターフェース							
IPLink	○		○	○	○	○	○
OPC	○			○			
DDE	○			○			
SuiteLink	○			○			

※「レポートビュー」「トレンドグラフ」は、FA-Report/FA-Trend を使用して利用できます。

「インストールガイド」Copyright © 2010 Roboticsware, Inc. All rights reserved.
2010 年 6 月 1 日 発行　株式会社ロボティクスウェア
〒331-0811 埼玉県さいたま市北区吉野町 1-11-1　TEL:048-782-9861 FAX:048-782-9862

■本書は著作権上の保護を受けています。本書の一部または全部について、株式会社ロボティクスウェアの文章での許諾を得ずに、いかなる方法においても無断で複写・複製することは禁じられています。
■記載されている会社名、製品名、ブランド名は、対応する法人または個人の（登録）商標です。
■このソフトウェアの仕様及び本書に記載されている事項は、将来予告無しに変更することがあります。